

藤田ミチ子さんは2人姉妹の長女として小松島町でお生まれになりました。22歳の時に会社員の夫とご結婚され、ご自身も電力会社の福利厚生を担当として勤めながら、おひとりの娘さんを育てられました。

ご趣味は生け花で、週に一回、ご自宅で生け花教室を開いているそうです。ミチ子さんは「毎週、花屋さんがどんな花を選んで届けてくれるのか楽しみです。」とおっしゃいました。

好き嫌いなく何でも召し上がり、近所の神社までお散歩するなど活発に過ごされています。この日、市職員等が訪れ、祝福を受けると「ありがとうございます」と大変喜ばれていました。



藤田 ミチ子さん



溝口 マサ子さん

溝口マサ子さんは江田町の農業を営むご家庭で6人兄弟の末っ子としてお生まれになりました。24歳の時に建築関係の夫とご結婚され、ご自身も工場勤めやご近所のお手伝いなどしながら、おふたりの息子さんを育てられました。

パンフラワーや籐編みなど多くのご趣味を嗜まれ、今は週3回通うデイサービスでの習字を楽しみにされています。マサ子さんは「施設や家で飾ってくれるのがうれしい」と微笑まれました。

健康の秘訣はよく体を動かして、よく食べ、よく寝ることで、野菜を好んで召し上がるそうです。

93歳頃までは、往復一キロほどある山まで自転車に乗って畑仕事に向かわれていました。

同居するご長男さんからは「とてもありがたい存在です。感謝しかありません。」と優しいまなざしを向けられていました。



久保脇 悦子さん

久保脇悦子さんは阿南市のご出身で、6人兄弟の長女としてお生まれになりました。22歳の時に変電所にお勤めの夫とご結婚され、3人の息子さんを育てられました。転勤が多かったため、ご自身は子育てに専念されていたそうです。

陶芸や水墨画、書道などを嗜まれ、毎年2回、市内喫茶店の展示会や市美術展に作品を寄せられています。健康の秘訣は普通に生活することで、好き嫌いなくご飯を召し上がられ、身の回りのことはほとんどご自身でされているそうです。また、脳のトレーニングとして、クロスワードパズルなどを日課にされています。

「誕生日会に家族がみんな元気で、集まってくれたことがうれしい。」と笑顔で100歳を迎えられた感想を話されました。

## 小松島市観光名所シリーズ 31

### 生島伊之五郎の寄進物

明治期(1868~1912)の小松島、現在の神田瀬町西の口に代々米屋と荒物屋を営む、島野屋という大店がありました。当主は生島伊之五郎、一人娘おカツの病氣平癒を神仏に祈りましたが、明治10(1877)年に願いむなしく先立たれてしまいます。

その後伊之五郎は身代のほとんどを神社仏閣、また多数の遍路道標に寄進しました。小松島市に残された代表的な寄進物としては、恩山寺バス停横の多宝塔、松島町地蔵寺境内の各種建造物(多宝塔、高さ5m余りの振袖地蔵、十六羅漢)、中田八幡社、金磯弁財天、立江寺の各所の大きな額があり、他には江田町宝聚寺、中郷町堀越寺にも名前が残されているとされます。

四国遍路の道標に至っては1,000基に至ってその名が残されたとされますが、定かではありません。遍路を279回廻ったとされる中務茂兵衛の道標にも生島伊之五郎名がいくつも刻まれており、これらの寄進物をもってしても癒されない深い悲しみが感じられます。



地蔵寺 多宝塔

NPO法人小松島観光ボランティア会

(注)小松島市観光ボランティアガイド協会より名称変更しています。

#### 【お問い合わせ先】

NPO法人小松島市観光ボランティアガイド協会  
こまつしま観光案内ステーション( JR南小松島駅内)

☎ 32・1537